

I 調査概要

1 目的

本調査は、京浜臨海部に立地する事業所について、現在の事業活動の状況や今後の事業展開方針などを把握するとともに、京浜臨海部における動向分析や課題抽出を行い、今後の取組の方向性の検討に資することを目的に実施した。

2 調査内容

(1) 文献調査の実施

既存の各種調査結果や統計資料等により、京浜臨海部の現状を把握するための文献調査を実施した。

なお、その際、「京浜臨海部における動向分析調査報告書」（平成27年3月、京浜臨海部再編整備協議会。以下、「前回調査」という。）の調査項目を参考とし、適宜各項目の更新（時点修正）を行った。

【調査の主な項目】

①立地企業の状況

産業の集積状況、事業所の産業構成、事業所の機能別分布状況

②土地利用

土地利用の状況

③都市基盤整備

鉄道、道路、港湾

④社会的条件

地価動向、関連法規の適用状況等

⑤環境

京浜臨海部の環境の現状、立地企業等による環境への取組

(2) アンケート調査の実施

京浜臨海部に立地する事業所を対象にアンケート調査を実施した。
調査概要は83ページ記載のとおり。

(3) ヒアリング調査の実施

アンケート調査結果を踏まえ選定した事業所及び京浜臨海部に関係する団体等を対象にヒアリング調査を実施した。
調査概要は176ページの記載のとおり。

(4) 調査結果のまとめ

(1)～(3)により得られた調査結果を分析し、京浜臨海部の現状と課題をとりまと

めた。

なお、調査結果の分析に当たっては、地域（横浜市域・川崎市域）ごと、業種ごとの傾向にも留意した。また、現状と課題のとりまとめに当たっては、主に次の視点から、前回調査で示された課題も踏まえたものとした。

【分析・とりまとめの視点】

- 産業
- 土地利用
- 都市基盤整備
- 環境
- 市民との共生
- 人材確保・育成 等

3 集計・分析について

設問により「京浜3区」、「京浜臨海部」、「横浜臨海部」、「川崎臨海部」にて集計・分析を行った。

(1) 京浜3区

京浜3区は、横浜市鶴見区、神奈川区及び川崎市川崎区の3区。

(2) 京浜臨海部

京浜臨海部とは、横浜市鶴見区及び神奈川区並びに川崎市川崎区のうち、産業道路（県道6号・東京大師横浜線）より海側の区域（ヨコハマポートサイド地区を除く。）を言い、様々な企業が集積する日本有数の工業地帯である。

石油や鉄鋼等、素材系の重厚長大産業を中心として長年にわたり我が国の経済を牽引してきた工業地帯であり、高度なものづくり技術や世界有数の環境技術をもつ企業が集積している。

近年では、従来の産業に加え、環境・ライフサイエンスなどの新たな成長分野の企業や研究所等の立地が進むとともに、世界最高水準の熱効率の火力発電や、太陽光発電、バイオマス発電、風力発電、天然ガス発電などの多様な発電施設が集積するエネルギー拠点としての役割を担っている。

(3) 横浜臨海部

横浜臨海部は横浜市鶴見区及び神奈川区のうち、概ね、第一京浜（国道15号）、首都高速道路（羽田線。横浜北線）及び臨港幹線道路より海側の区域、全体で約1,600ヘクタールの広さがあり、エリアごとに異なった様々な機能が集積、多くの就業者が働いており、大規模な経済活動が展開されているという特徴を持っている。また、2000年に開所した理化学研究所横浜研究所（現・理化学研究所横浜事業所）をはじめ、研究開発機能の集積も進んでいる。

(4) 川崎臨海部

川崎臨海部とは、川崎市川崎区のうち概ね産業道路より海側の区域を指し、約2,800ヘクタールの広さがあり、鉄鋼、石油、エネルギー、物流等の工場や事業所が集積し、コンビナートを形成している。浮島町や千鳥町を中心に石油産業が集積、また、南渡田や扇島を中心に鉄鋼業の集積があり、千鳥町、水江町、扇町、東扇島を中心にエネルギー施設の集積も見られる。さらに、東扇島には物流施設が集積し、日本最大級の冷凍冷蔵倉庫群も立地している。